

六田晴洋の

私たちの ご近所さん

トガリ
ネズミ
ラウアー



VOL. 41 「恋問海岸の住人、
イソコモリグモ

夏の終盤、恋問海岸の
地面に無数の穴が開いて
いることに気付きました。
昔、その穴の主を飼って
いた私は「おっ！あいつ
だ」と確信。それはイソ
コモリグモ。サラサラの
砂を掘り、崩れないよう
に糸で固めながら深さ30
センチほどの巣穴を器用
に作るクモです。日中は
穴の奥に隠れ、夜に出て
きます。ある日、その様
子を撮影することにしま
した。

「新たな一面を知った夜」

いざ日没。照明をつけて穴の
前で待つものの、出てきません。
「不在か？別の巣穴に移動する
べき？いや、在宅中のはず」と
自問自答しながら2時間。する
とモゾモゾと穴の出入り口近く
まで登ってきました。立ち止ま
り、八つの目で私をじっと見て
います。見つめ合うこと2〜3

分。イソコモリグモはバックで
再び奥へ潜っていききました。
結局7時間待ちました。出
てきてくれませんでした。しか
しその間、興味深い発見があり
ました。すでに外に出ていた他
のイソコモリグモが続々とやっ
てきて、灯りに集まる虫を堂々
と食べているのです。巣から出
た後は、光も人も警戒しないの
か！

「アイドルと裏方： なんてない」

実はイソコモリグモ、絶滅危
惧種に指定されています。環境
省が定める絶滅の危険度はトウ
キョウトガリネズミと同じラン
ク。とは言え「イソコモリグモ
を守ろう」と言っても、人の心
を動かすことは難しいものです。
白糠町では人が恋問海岸の草

原を踏み荒らさないよう
木道を作るなど、環境保
全対策を進めています。
その看板役を担うのは
キュートなトウキョウト
ガリネズミ。でも、どさ
くさに紛れてイソコモリ
グモをはじめ、多くの命
も一緒に守られています。
大事なものは、こうして環
境ごと守ること。

複雑で絶妙なバランス
によって保たれる自然界。
そこには「かわいい」も
「気持ち悪い」もありま
せん。みんな、そのシー
ソーに乗っている大切な
一員。もちろん、見た目
がさらにダーティなあの
子も。

PROFILE

六田晴洋 ろくたはるひろ

1986年生まれ。
2021年に白糠町へ移住。
大学卒業後、フリーランスの
カメラマンやディレクターとして
野生動物や自然風景を撮影している。
<https://rokutaharuhiro.com>



無数にあるイソコモリグモの巣穴



巣穴からこちらを見つめる